

新たな和食普及プロジェクトについて



令和7年10月31日

農林水産省

大臣官房 新事業・食品産業部
外食・食文化課 食文化室

1. これまでの取組：「Let's！和ごはんプロジェクト」



- 「Let's！和ごはんプロジェクト」は、和食文化の保護・継承につなげていくため、和食文化のユネスコ無形文化遺産登録5周年となる平成30（2018）年度に立ち上げた官民連携のプロジェクト。
- 和食にかかわる事業者と行政が一体となって、子供たちや、和食について「手間がかかり、面倒」とのイメージを有する忙しい子育て世代に、身近・手軽に健康的な「和ごはん」を食べる機会を増やしてもらう取組を実施。
- 令和元（2019）年度から11月を「和ごはん月間」と位置づけ、11月24日の「和食の日」と連携し、集中的に活動。

※ 和ごはん・・・日本の家庭で食べられてきた食事であって、（１）ごはん、汁物、おかず等若しくはその組み合わせで構成されているもの、又は、（２）だし並びに醤油及び味噌をはじめとする日本で古くから使われてきた調味料等が利用されているもの

<各企業等の取組例>

- ・和ごはんの調理が簡単にできる商品やレシピ、和ごはん調理家電の開発・販売。
- ・和ごはん総菜や弁当の開発・販売。
- ・レストランで子供向けやご当地食材のメニューの展開、社員食堂等での和ごはんフェアの実施。
- ・時短につながる和ごはん調理方法を動画等により分かりやすくWEB展開。
- ・年中行事（お正月や五節句等）や人生儀礼（お食い初め等）などと絡めた関連商品やメニューの開発・販売



<国の取組>

- ・プロジェクトの目的達成のための活動を行う企業等をプロジェクトメンバーとして登録・公表。
- ・プロジェクトメンバーが自由に商品や販促物等に使用可能なロゴマークの提供。
- ・マスコミ、SNS等を含め多様なメディアへプロジェクト・各企業等の取組の情報発信。
- ・関連イベントの開催。

プロジェクトメンバー数：193（令和7年9月末時点）

食品製造業者、流通業者、中食・外食業者のみならず、レシピや調理家電製造業者等

2. 「Let's！和ごはんプロジェクトの見直しに関する懇談会」の概要



- 「Let's！和ごはんプロジェクト」を更に発展させ、若者やシニア世代、単身世帯などにもターゲットを広げた活動を官民が協働して展開するために、「Let's！和ごはんプロジェクトの見直しに関する懇談会」を開催し、幅広い視点から具体的な方策を検討。

「Let's！和ごはんプロジェクトの見直しに関する懇談会」 の委員構成

- | | |
|----------------------|--------|
| ◎ 武庫川女子大学 教授 | 藤本 勇二 |
| ○ 一般社団法人和食文化国民会議 副会長 | 後藤 加寿子 |
| 一般社団法人日本ガストロノミー協会 会長 | 柏原 光太郎 |
| 一般財団法人日本食生活協会 会長 | 田中 久美子 |
| イオンリテール株式会社 食品本部 | |
| マーケティングチームリーダー | 萬 修身 |
| 株式会社マルヤナギ小倉屋 | |
| 商品企画マーケティング推進部 部長 | 尾鷲 美帆 |
| 株式会社エブリー 取締役 執行役員 | 菅原 千遥 |
| 辻学園調理・製菓専門学校 日本料理教授 | 阪本 健一 |
- ※ ◎は座長、○は座長代理

懇談会の開催実績

- 第1回検討会 令和7年1月21日
(1) 委員の紹介・座長の選任
(2) 和食をめぐる現状と課題について
- 第2回検討会 令和7年3月10日
・先進・優良事例のヒアリング
- 第3回検討会 令和7年5月30日
・先進・優良事例のヒアリング
- 第4回検討会 令和7年7月31日
・先進・優良事例のヒアリング
- 第5回検討会 令和7年8月29日
・論点整理（持ち回り審議）
- 第6回検討会 令和7年9月29日
・先進・優良事例のヒアリング
・取りまとめ（案）

3. 「Let's ! 和ごはんプロジェクト」に関する評価・検証



- 「Let's ! 和ごはんプロジェクト」は、和食の普及に関わりを持つ193の企業・団体等の参画を得て、次世代を担う子供たちや子育て世代に対し、身近・手軽に健康的な「和ごはん」を食べる機会を増やしてもらう活動を展開してきた。これにより、**子育て世代等における「食の簡便化志向」への対応という点では一定の効果**があったものと考えられる。
- 一方、プロジェクト参加企業数は、地方を拠点とする企業に参加拡大の余地が大きく、全国的な広がり欠けている。また、プロジェクトメンバー間で連携した取組は限定的であり、さらに、プロジェクト全体の知名度も十分に浸透しているとは言い難い。
- 和食を継承している人の割合が半数を切っている中、世代を超えた意識醸成と和食の喫食機会の拡大が必要。しかしながら、現行プロジェクトでは、和食の魅力を体験できる機会などが限られるほか、和食の有用性といった新たな価値を整理・発信する取組についても拡大余地がある。さらに、コロナ禍において家庭内食の機会が拡大したにもかかわらず、家庭での和食の調理体験やSNSを通じた発信が**十分に対応できていない面も見られる**。
- 消費者の多様な価値観やライフスタイルの変化なども踏まえれば、「Let's ! 和ごはんプロジェクト」を更に発展させ、**全ての世代に和食継承の働きかけを行うとともに、和食を食べる機会を拡大していくための新たな官民協働プロジェクトを検討していくことが望ましい**。

4. 「Let's！和ごはんプロジェクト」の見直しに向けた主な方向性



- プロジェクトの主なターゲットは、子ども達やその子育て世代としてきたが、共働き世帯の増加等の将来的な社会構造の変化を考慮すると、**子どもからシニアまでの幅広い世代向け**のプロジェクトを展開していくことが必要。
- SNS に触れる時間が大幅に増加し、レシピ動画を利用した料理づくりが拡大している中、**SNS や動画を活用した情報発信の充実が必要**。
- 次世代を担う若年世代に対し、和食の持つポジティブなイメージが十分に届いておらず、**情報発信を一層工夫していく必要**。
- 近年の「**健康志向**」や「**経済性志向**」を重視する風潮、「**持続可能性**」への関心など新たな価値観への対応が必要。

5. 新たな和食普及プロジェクトの展開方向



- 平成30年度に開始した「Let's！和ごはんプロジェクト」は、192企業・団体の協力を得て、子育て世代等における「食の簡便化志向」への対応という点で一定の効果があった。
- 一方、和食や伝統食を継承し伝えている国民の割合は横ばいとなっており、次世代に確実に継承されているとは言い難い状況。



- 現行プロジェクトは全国的な広がりを欠き、メンバー間で連携した取組も限定的である。和食の魅力体験や有用性発信の機会拡充、家庭での調理体験の促進が今後の課題である。



- このため、「新たな和食ニーズの開拓」、「和食を食べる機会の拡大」、「和食調理の簡便化の推進」を図る観点から、プロジェクトの見直しを行い、**おいしく、健康で、誰もが楽しめる和食スタイル**の実現を目指すこととする。

【見直しの視点】

①新たな和食ニーズの開拓 (和食を知る)

- 消費者ニーズの変化等を踏まえ、「おいしさ」に加え、「健康有用性」や「持続可能性」、「エンタメ性」など**新たな価値**の整理・発信。

②和食を食べる機会の拡大 (和食を食べる)

- 和食を食べる機会を増やすため、「和食月間」におけるイベントや店舗企画の実施、食品事業者等と連携した取組などを推進。

③和食調理の簡便化の推進 (和食を作る)

- 和食は調理に手間がかかるとのイメージの払拭に向け、SNSでの発信のほか、和食体験講座や料理教室の開催などを後押し。

(参考) 「おいしく、健康で、誰もが楽しめる和食スタイル」の考え方について



- 「おいしく、健康で、誰もが楽しめる和食スタイル」とは、**和食の基本的な考え方を受け継ぎつつ、若年層の嗜好にも調和する、現代の暮らしに根ざした食習慣**のこと。
- 旬の食材やだしを活かした調理、塩分や油分を控えた構成、見た目にも楽しい盛り付けなど、若い世代でも親しみやすい形で、バランスよく、無理なく続けられるのが特徴。心地よい暮らしを大切にしつつ、感謝の気持ちや食卓でのつながりといった、和食に根づく価値観をしっかりと継承していくことも重視。



「朝のリズムを整える和習慣」



「身近な食材で続ける和の工夫」



「仲間で味わう鍋の時間」



「自分らしく楽しむ和のお弁当」



「人とつながる和の空間」



「季節を感じる行事食」

6. 新たな和食普及プロジェクトの名称



- 食べて「おいしい」だけでなく、栄養バランスに優れ、社会的なつながりを深める役割を果たす「和食」の魅力を次世代に継承していくため、「**おいしく、健康で、誰もが楽しめる和食スタイルの実現**」というコンセプトの下、プロジェクトの名称を「**楽しもう！にほんの味。～和のこころをつなぐ食の国民運動～**」とする官民協働の活動を展開。

楽しもう！にほんの味。

～和のこころをつなぐ食の国民運動～

〔略称：「楽し味（たのしみ）プロジェクト」〕

- 親しみやすさとメッセージ性を両立し、幅広い世代に和食の魅力を伝えることを意図している名称。
- 「楽しもう！」は、堅苦しくなく前向きな呼びかけにより、自発的な参加を促す。
- 「にほんの味」は、和食がもつ地域性や多様性を包括しつつ、日本固有の食文化を象徴的に表現している。
- 「和のこころ」は、和食に込められた自然との調和、命への感謝を含めた「いただきます」の精神などを表す。
- 「つなぐ」は、世代を超えて、人と人、家庭と社会、過去と未来の架け橋となる活動を示唆し、持続可能性を意識させる。
- 「食の国民運動」は、国民一人ひとりが主役となり、日常の食を通じて和食文化を育むという広がり和社会的意義を表現している。

7. 新たな和食普及プロジェクトのロゴマーク



- 「楽し味プロジェクト」の理念や価値、目指す方向性などを視覚的に表現し、幅広い世代の人々への強い印象と認知度を高めるための戦略的な活動の一環としてロゴマークを作成。

ロゴマーク



ロゴマークの解説

- ・ 赤い円と茶碗、箸で日本らしさと「つながり」を象徴し、箸が円からはみ出す構図で和食の広がりを示す。
- ・ 手書き風の文字で手仕事感と親しみやすさを表現し、誰もが気軽に親しめる和食の魅力を伝えるデザインとしている。

ハッシュタグ

#楽しもうにほんの味

#楽し味プロジェクト

#和食月間

#和食の日

※「ロゴマーク使用ガイドライン」において、ロゴマークのデザイン・色、サイズ等を定めている。プロジェクトメンバーが申請し、承認を得ることで、ロゴマークを使用することができる（11月1日～）。

8. 新たな和食普及プロジェクトにおける「三つのアクション」



- 「楽し味プロジェクト」は、消費者が「知る→食べる→作る」を楽しみながら体験できる流れを、事業者による価値創造と需要開拓の取組とともに推進するものである。
- 具体的には、デジタル発信による和食の魅力の再発見、外食・中食・内食の各場面における実践機会の拡充、現代生活に調和した新たな和食スタイルの提案を「三つのアクション」として展開。

新たなプロジェクトにおける「三つのアクション」

和食を知る

- 和食の有用性や旬の食材、彩り、豊かな盛り付けといった要素に焦点を当て、SNSなどで積極的に情報発信を行う。
- 専門家や料理人、事業者が協働し、調理技術の伝承や食材活用法を学べる実践講座を企画・運営する。
- 地場産食材を活かす飲食店・流通事業者と連携し、地域ブランド価値の向上と消費拡大を図る。等

和食を食べる

- 和食を食べる機会を広げるイベントの開催や、販売促進と食文化発信を両立する店舗企画などを推進する。
- 食品メーカーや給食事業者と連携し、学食・社食などの食空間で和食体験を拡充し、健康・教育・地域貢献と結びつける。
- 食卓での孤食と食文化継承が課題となる中で、家族や地域で食卓を囲む機会を増やす取組を後押しする。等

和食を作る

- 企業・団体による新商品開発などを通じ、時短調理や簡便食材を活用した“現代の和食”を提案する。
- 下処理済み食材や和食キットなど、新たな市場ニーズに応える製品開発を支援し、家庭内調理の再活性化を促す。
- 「だし」や基本調理法を学ぶ体験教室を、地域の生産者・食品メーカーと協働して実施する。等

(参考) プロジェクトメンバーの活動内容 (イメージ)



- 「楽し味プロジェクト」においては、プロジェクトの目的に賛同し、目的達成のための活動を行う企業等をプロジェクトメンバーとして登録し、公表を実施。
- プロジェクトメンバーは、プロジェクトの目的を達成するために、「SNSを活用した和食の魅力発信」、「和食月間に連動した和食フェアの開催」、「家庭で簡単・手軽に作れる和食キット等の提供」などの活動を実施。その他、活動内容の例は活動規約(※)に記載。

※ 「[楽しもう！にほんの味。～和のこころをつなぐ食の国民運動～](#)」Webサイトに掲載

活動内容の例

SNSを活用した 和食の魅力発信

- フォトジェニックな和食料理の写真や動画をInstagram等で発信し、「映える」和食の魅力を若年層に訴求するための活動を行う。



デリッシュキッチン
「せいろのごはん朝食プレート」

「和食月間」に連動した 「和食フェア」の開催

- 「和食月間」に連動した小売店舗による「和食フェア」の開催など、和食を日常的なメニューとするための活動を行う。



「小売店舗での鮮魚フェア」

家庭で簡単・手軽に作れる 和食キットやレシピの提供

- 家庭でも手軽に和食を作れるよう、必要な食材や調味料がセットになったキットの販売やアレンジレシピの公開を行う。



「和食ミールキット」

(参考) 農林水産省による取組内容 (イメージ)



- 「楽し味プロジェクト」においては、社会全体の課題として和食を食べる機会の確保を図っていくため、**消費者の行動変容、ライフスタイル転換のうねり・ムーブメントを起こしていく活動を展開**することとする。

活動内容の例

和食の持つ多様な魅力の情報発信

- 特設WEBサイトで和食の持つ多様な魅力と華やかなイメージを若年層に強調し、**和食への興味・関心を喚起**するため、“映える”和食を重点的に情報発信。



和食の華やかな魅力を伝える
料理・食品の情報発信

和食を食べる機会を増やす活動の後援・協力

- **和食を食べる機会を増やす**ため、和食月間に関係者と連携した取組を集中的に実施。あわせて、インバウンド向け和食体験の取組を促進。



日本の食を楽しむ外国人

和食を作る機会を増やす活動の後押し

- 和食普及の中核的人材である「**和食文化継承リーダー**」等を講師に迎え、家庭で**和食を作る機会を増やす**ための料理教室や体験講座を実施。



和食文化継承リーダー
の活用による和食普及

9. 当面の活動スケジュール



- 11月1日に「楽し味プロジェクト」が始動。Webサイト開設、プロジェクトメンバーの募集、ロゴマークの申請開始。BUZZ MAFF（ばずまふ）にてプロジェクトの紹介を予定。
 - 11月は和食月間。期間中は、小学校等での和食の授業、和食や日本の酒をテーマにした体験イベントの開催などにより、和食の魅力や楽しみを体感できる多様な取組を実施。
 - その他、企業・団体等が「和食月間」に実施する、さまざま和食関連企画を一覧にして紹介。
- [和食月間における企業・団体等活動予定表](#)（農林水産省にリンク）

令和7年11月1日

農林水産省

「楽し味プロジェクト」始動

- Webサイト開設
- プロジェクトメンバー募集開始
- ロゴマークの申請受付開始
- ポスターの使用開始



楽しもう!
にほんの味。

#楽しもうにほんの味
#楽し味プロジェクト
#和食月間
#和食の日

和食月間

令和7年11月4日
令和7年11月20日

和食文化国民会議

だしの授業（新宿区立落合第一小学校）
だしの授業（江東区立東陽中学校）

令和7年11月22日

農林水産省・絵本でSDGs推進協会・同志社女子大学

和食絵本の読み聞かせイベント（同志社女子大学）

令和7年11月24日

農林水産省・国税庁・和食文化国民会議・日本酒造組合中央会

和食と日本の酒の魅力体験フェア（コレド室町・江戸桜通り地下歩道）

令和7年11月30日

10. Webサイト・参加申請等について

- Webサイトを開設し、プロジェクトの概要や活動規約、プロジェクトメンバーへの申請フォーム、ロゴマーク等を掲載。
- [楽しもう！にほんの味。～和のこころをつなぐ食の国民運動～](#)（農林水産省にリンク）

楽しもう！にほんの味。
～和のこころをつなぐ食の国民運動～
[略称：「楽し味（たのしみ）プロジェクト」]

こちらから
メンバー登録を
してください！



（農林水産省へリンク）



楽し味プロジェクト普及ポスター

※プロジェクトメンバーはご利用いただけます。